



# お江戸舟遊び瓦版 424号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

## 芸濃町水族館劇場観劇・伊勢寺社巡り

日時：2016年5月7日～9日

はじめに：法政大学ミニゼミ仲間の「芸濃町を芸濃い町にする会」主催の水族館劇場観劇と伊勢寺社巡りに参加した。

### 1日目 東京—松阪—本居宣長記念館—芸濃町水族館劇場

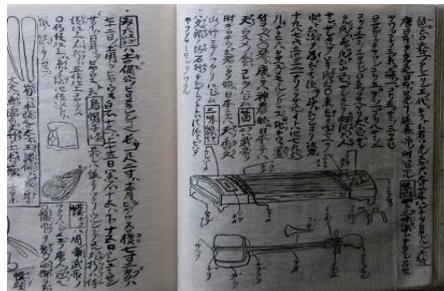
12時に松阪に到着。昼食後、本居宣長記念館へ。1730年松阪本町の木綿商家に生まれた読書好きの少年は、やがて医者となり、魚町に住む。賀茂真淵との出会いを通して、

『古事記』解説をライフワークとし、35年の歳月をかけて『古事記伝』を執筆したことで有名だ。記念館は、宣長73年の生涯を、「もの学びの軌跡・奇跡」として、著書、蔵書、遺品、版木の他、門人の著書、書簡など近世国学資料を中心に16000点の収蔵を適時開架、重要文化財は467種1949点に及んでいる。14歳時の「事彙覚書」をはじめ、驚くべき筆と絵心の才能である。それらの生涯の書き物などが200年を超えて丁寧に貴重品として保存されていることに驚くばかりである。

その後、今回のメインイベント、三重県芸濃町東日寺に特設された水族館劇場の『パノラマ島綺譚 この世のような夢』を観劇。演者の方々の速い台詞と動きに、息つく暇もなく、驚きの時間が過ぎていった。役者だけでなく、飛行機やコイやカモも出演し、水が駆使され、上から下からの噴水はただただ驚愕そのもので、まさに水族館劇場の江戸川乱歩を自在に組み替えた驚きの大スペクタクル芝居であった。今回のプロデューサー伊藤裕作氏は、ゼミ仲間であるとともに、日本中世の最大の思想家親鸞の研究者でもある。18歳で、寺山修司の「家出のすすめ」に煽られて飛び出してから40数年、風俗リポーターを続けてきた中で、25年間見続けてきた、桃山邑の「水族館劇場」を、町創立60年のふるさと津市芸濃町に呼び、地元の少年少女に贈りたいと意気込む。世界と日本の混沌とした世の中に、親鸞が生きた時代と同じような終末観を感じ、日本中どこを探しても観られない藝濃い芝居を持って来ようと奔走した結果である。人間味いっぱい素晴らしいパフォーマンスだった！



松阪駅



宣長14歳時の「事彙覚書」



宣長の住居遺跡



## 2日目 専修寺—伊勢市—滝原宮—朝熊山・金剛證寺

2日目の朝、浄土真宗高田派本山専修寺に。専修寺は、広大な境内地を有する、七堂伽藍が立ち並び東海地域随一の大寺院。高田派は、真宗の中でも親鸞聖人直々の信仰・習慣が変わることなく今に伝授してきたことが最大の特徴で、親鸞聖人が門弟に授与した直筆の聖教が数多く伝えられている。宝物館を見せて頂き、お寺さんから「親鸞聖人絵伝」等について懇切な貴重な解説を頂いた。



専修寺



宝物館・親鸞聖人絵伝の解説を頂く



如来堂

そこから、滝原宮に廻り、朝熊山を登り、伊勢湾を一望し、次いで金剛證寺を参拝した。

## 3日目 鳥羽市—伊雑宮—伊勢神宮内宮

最初に、昔から「大神の遙宮（とおのみや）」と云われる内宮の別宮・瀧原宮に参宮。その後、朝熊山から伊勢湾を一望し、金剛證寺に参拝。さらに、漁師や海女さんたちからの信仰が厚い、内宮の別宮・伊雑宮へ。昔の話を聞かせて頂いた森御師は昨年の世界土壌微生物オリンピックで水田部門金賞受賞の素晴らしい田んぼをされているとのこと。最後に伊勢神宮内宮を参拝し、帰路に着いた。



滝原宮



朝熊山から伊勢湾を望む



金剛證寺



重要無形民俗文化財磯部の御神田



伊雑宮



伊雑宮御田植祭



伊雑宮の御師



伊勢神宮



伊勢神宮内宮

**所感：** 三重県芸濃町の水族館劇場に感動するとともに、宣長の遺品、専修寺の親鸞の遺品、そして伊雑宮の庶民の関わりの歴史に感動させられた。 海洋観光立国を夢見て！ （文責 中瀬）